

〔技術のページ〕

新しい基幹種雄牛を紹介します！

岡山県農林水産総合センター 畜産研究所 改良技術研究室

このたび、新しい基幹種雄牛（3頭）が選抜されたので、紹介します。

【新規基幹種雄牛】】

1 1 「新初英」号号

～長崎全共期待のスーパールーキー！！～



生年月日：平成17年7月7日

生産者：坂本 英典 氏（新庄村）

登録番号：黒原4930 審査得点：82.3点

血統：沢茂勝

×しんはつひめ（利花）

備考：第10回和牛全共出品候補種雄牛

「新初英」号は質量兼備の種雄牛として活躍中の「沢茂勝」号の後継牛として作出されました。

本牛は体積・均称に優れており、産子においても、発育よく、均称・品位に優れたものが多く、体型面の改良が期待できます。

表1に現場後代検定の結果及び育種価を示します。検定成績はロース芯面積と脂肪交雑で特に優れ、枝肉重量とバラの厚さも平均以上の育種価であり、主要形質すべてにおいて高く安定した産肉能力となっています。

交配についてですが、検定成績からみると兵庫系の繁殖雌牛との交配で脂肪交雑が好成

績で、また、気高系の繁殖雌牛との交配で枝肉重量が高く安定していました。

なお、本牛の産子は、平成24年10月に長崎県で開催される第10回和牛全共の出品に向けて、現在準備が進められているところです。

表1 「新初英」号の現場後代検定成績及び育種価

	検定成績		第33回育種価
	去勢	雌	
枝肉重量(kg)	455.5	428.2	27.543 (B2)
ロース芯面積(cm ²)	57.0	54.0	10.92 (3%)
バラの厚さ(cm)	7.7	7.1	0.701 (A3)
脂肪交雑(BMS No.)	6.1	6.3	1.572 (3%)
上物率(%)	78	67	

2 2 「新糸藤」号号

～肉質能力抜群の新藤良系！！～



生年月日：平成16年9月10日

生産者：福井 幸平 氏（新庄村）

登録番号：黒14065 審査得点：82.7点

血統：糸藤（大分）

×しんはつひめ1（利花）

備考：第10回和牛全共出品候補種雄牛

「新糸藤」号は新しい藤良系の種雄牛として、大分県の「糸藤」号を利用して作出されました。

表2に現場後代検定の結果及び育種価を示します。検定成績は特に脂肪交雑に優れています。去勢牛（10頭）の検定成績では、BMS No.の平均が6.8と極めて高く、全頭が4規格以上の上物でした。また、ロース芯面積の育種価がAランクであり、脂肪交雑及びロース芯面積の改良が期待できます。

藤良系の種雄牛としては極めて高い脂肪交雑の能力を持っている「新糸藤」号ですが、枝肉重量はやや小さいことから、気高系など増体型の繁殖雌牛との相性がよいと考えられます。

なお、本牛の産子は、「新初英」号と同様に第10回和牛全共の出品に向けて、現在準備が進められているところです。

表2 「新糸藤」号の現場後代検定成績及び育種価

	検定成績		第33回育種価
	去勢	雌	
枝肉重量(kg)	425.5	421.7	-8.554 (C)
ロース芯面積(cm ²)	55.4	53.3	6.660 (A3)
ハラの厚さ(cm)	7.3	7.0	0.340 (C)
脂肪交雑(BMS No.)	6.8	5.2	1.338 (A1)
上物率(%)	100	50	

生年月日：平成17年1月20日

生産者：西林 顕 氏（高梁市）

登録番号：黒14066 審査得点：85.0点

血統：糸藤（大分）

×はつはな8の11（平茂勝）

「西乃糸藤」号は「新糸藤」号と同様、新しい藤良系の種雄牛として、大分県の「糸藤」号を利用して作出されました。

表3に現場後代検定の結果及び育種価を示します。検定成績は各主要形質で安定しています。育種価においても、脂肪交雑がAランク、他の主要項目も平均以上であり、バランスのとれた産肉能力です。

また、体型面においては、特に均称に優れています。

バランスのとれた藤良系の種雄牛ですので、兵庫系など肉質型の繁殖雌牛との相性がよいと考えられます。

表3 「西乃糸藤」号の現場後代検定成績及び育種価

	検定成績		第33回育種価
	去勢	雌	
枝肉重量(kg)	455.9	433.5	30.143 (B2)
ロース芯面積(cm ²)	55.4	54.0	5.597 (B2)
ハラの厚さ(cm)	7.3	7.3	0.507 (B2)
脂肪交雑(BMS No.)	6.1	5.6	1.262 (A2)
上物率(%)	71	54	

3：「西乃糸藤」号

～質量兼備タイプの新藤良系！～



当研究所で繋養中の基幹種雄牛は、「沢茂勝」号、「西花8」号に上記のニューフェイス3頭を合わせた5頭となりました。いずれも本県の和牛改良に資する優秀な種雄牛ですので、ぜひご活用をお願いいたします。

終わりになりますが、種雄牛の生産者をはじめ、現場後代検定に協力して頂いた繁殖農家及び肥育農家の方々、多くの関係者の皆様に感謝を申し上げます。